

東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 萩原 裕也

所属 市民課

<p><u>1 派遣期間</u></p> <p>平成23年 5月 12日 ~ 平成23年 5月 21日</p>
<p><u>2 派遣先及び主な活動場所</u></p> <p>岩手県大槌町 大槌町役場仮庁舎</p>
<p><u>3 支援活動の内容及び活動の状況</u></p> <p>税務会計課の業務である罹災証明書発行の業務補助を行った。証明書の発行自体は大槌町の職員が行った。具体的な活動としては、その本来の証明発行業務を円滑に行うことができるように、来庁者の誘導、案内や人数確認を行った。</p> <p>来庁者の殆どは義援金の申請をするために来庁しており、その申請にあたっては罹災証明書が必要になるため、来庁者数は1日平均100人前後であった(罹災証明書の申請者)。</p> <p>義援金の申請自体は1日150人と人数制限を設けており、住民票や戸籍謄抄本等を発行する町民課においても、同様に人数制限を設けていた。</p>
<p><u>4 活動を通じて感じたこと</u></p> <p>支援期間が約10日と短期間であったので、それほど重要な業務は任せてもらえなかった。業務内容も普段の自身の業務とは異なるものであったので、静岡県と岩手県の災害対策本部とでさらに細やかな人員要請や人員配置の調整が必要であると感じた。</p>
<p><u>5 支援活動から見た被災状況など</u></p> <ul style="list-style-type: none">・大槌町は、役場自体が津波で流されたため、震災当初は業務が遂行できる状態ではなかった。その後4月22日に、小学校の校庭に仮庁舎ができ、その日以降からようやく本来の窓口業務等を開始することができた。・避難訓練を毎年3月3日に行っているが(昭和三陸津波の日)、3月11日の時は訓練どおりにはいかなかった。車で逃げようとした人が多かった。・津波第一波は、地震発生から約30分で到達した。地震発生後、貴重品等を取りに一旦自宅に戻った人が津波に流されている。大槌町は人口の8~9割が沿岸部に集中していた。・震災直後停電にみまわれ、情報を収集する手段は車のラジオのみだった。